

1960年代後半から70年代初頭の高島亀太郎（下）

——政治面について——

川 東 埴 弘

目 次

はじめに

第1章 1966年

第2章 1967年

第3章 1968年

第4章 1969年

第5章 1970年

第6章 1971年

第7章 1972年

はじめに

前稿¹⁾で1960年代後半から70年代初頭（1966年～72年）、晩年の亀太郎の家業面について見ました。世の経済は、「65年不況」を克服し、第2次高度経済成長の真っ最中でした（「いざなぎ景気」、65年10月～70年7月、57カ月）。しかし、亀太郎の会社は業績不振が続いていました。その上、68年8月28日、木工会社が原因不明の火事に遭い、焼失してしまい、決定的な打撃を受け、遂に木工会社の廃業を余儀なくされました。翌年に極々小規模で会社を再開しますが、不振続きで、家業の重点は不動産取引に移っていました。

さて、本稿では、60年代後半から70年代初頭の時期（1966年～72年）、晩年の亀太郎の政治面について見てみます。年齢は83歳から89歳にかけての高

1) 「1960年代後半から70年代初頭の高島亀太郎（上）—家業面について—」（「松山大学論集」第14巻第3号，2002年8月）

齢ですが、64年3月以来自民党宇和島支部の顧問を続け、市政界になお影響力を保持していました。なお、中央政界は佐藤・田中政権の時代、愛媛県政は久松・白石の時代です。

第1章 1966年

1966年（昭和41）、亀太郎83歳の年です。中央の政権は、1964年11月以来、佐藤栄作が担当しています。愛媛県政は51年4月以来久松定武が政権を担当し、再選を繰り返しています（63年1月から第4次久松県政）。亀太郎は自民党宇和島支部の顧問です。

(1) 愛媛県関係

本年4月16日、天皇陛下が植樹祭で松山に来ています。4月17日が植樹祭の日です。亀太郎は案内を受け、出席しています。「昨日御来県の天皇皇后両陛下が行幸啓植樹際に臨まれる日である。予も県から特に案内を受けた一人として、前夜来松。…午前八時指定の番町小学校へ行った。係員から記念品を受取り、八時半用意の自動車で順々出発、現地久谷村へ向った。予は安平前代議員と同乗、植樹祭場設けのテントに着いて、多数参列者と共に開始を待った。十一時両陛下御来着、御野立所に入られ、予定の皿ヶ嶺林地に御手植並に種蒔があった。大臣、衆議院議員長等の式辞や功労者表彰が行われて後、一般参列者一万三千人が各苗木三本づゝを植樹した。これより先両陛下は御退場、式後十二時過から夫れぞれ現地出発」。

そして、翌18日には天皇陛下が宇和島に来ています。「両陛下本日御来宇につき、午後四時妻と女中カツ子は和霊神社前へ行って奉迎した」、そして、19日に天皇陛下を見送っています。「午後一時までに宇和島駅へ行って、両陛下の御出発を奉送した。昨日来地方産業と施設を御視察、天赦園に御一泊の両陛下は、午後一時十八分の特別列車で御出発、御帰京につき、予等特別奉迎員は駅ホームに整列してお見送申し上げ、菊花御紋章の宮廷列車窓際に立たれた両

陛下を近く拝することを得た」。亀太郎の天皇崇拜ぶりをみることが出来ます。

来年に知事選や市長選等一斉地方選挙があります。その動きが早くも見られます。愛媛県知事選にかんして、自民党側は、6月に候補の推薦委員会を発足させ、久松知事の5選出馬を決めています。他方、社会党は10月、個人的人望の高い衆議院議員の湯山勇を決めています²⁾

宇和島市長選挙にかんしては、元県議、元衆議院議員の山本友一³⁾が意欲を示し、亀太郎に相談に来ています。7月15日「午前十時山本友一君来訪、明年の市長選に同君立候補につき意見を求められた」。

(2) その他のこと

4月29日に東京で戦前期の衆議院議員招待懇親会があり、それに参加しています。「五時半永田町の衆議院議長公邸へ行き、六時から催される戦前の衆議院議員招待親睦会に出席した。旧閑院宮邸跡に新築された二階建洋館で芝生の後庭が広く、先ず受付で新しく出来た前議員章を渡され、六時から大広間で開会された。来会者は戦前議員二百四十人くらいの内百五十人で、予と同期の昭和十二年及び十七年組には松浦伊平、太田理一、依光好秋、沖島鎌三等の諸君があり、又現職で特に出席の側には松浦周太郎、浜地文平、小泉純也の外、松村謙三氏があった。現議長山口喜久一郎氏の挨拶に始まり、松村氏の祝辞最年長者九十歳の松永安左衛門氏の感想談があつて、模擬店式の宴会に移り、互に往時を語って、和やかなパーティーであった。八時前に辞出、転じて地下鉄で上野広小路へ出て鈴本亭の落語を聴いた」。

中央政界では、綱紀弛緩、政治腐敗問題が続出し（荒船清十郎運輸相が自分の選挙区の深谷駅に無理やり急行を止めさせたり、上林山栄吉防衛庁長官がお国入りの際に自衛隊機を利用したり、松野頼三農相がラスベガスで賭博したり

2) 『愛媛県議会史 第6巻』723頁。

3) 1905年（明治38）4月生まれ。盛運汽船社長。宇和島市議（1936年5月～47年4月）、愛媛県会議員（1947年4月～53年4月）、県会議長（1952年5月～53年4月）をへて、衆議院議員（1953年4月～58年5月）を歴任していた。

等々……), 藤山愛一郎ら自民党内批判派は佐藤首相への批判を強め, 結局, 佐藤は年末の12月27日衆議院解散に踏み切っています⁴⁾ 日記にも「議会在解散となった」とあります。所謂「黒い霧」解散です。

第2章 1967年

1967年(昭和42), 亀太郎84歳の年です。本年は年末解散による総選挙があり, また, 一斉地方選挙の年です(知事選, 市長選, 県議選, 市議選等)。亀太郎は顧問として, それぞれ係わっています。以下, 見てみましょう。

(1) 愛媛県知事選挙関係(1月26日)

愛媛県知事選挙は, 1月1日が告示, 1月26日が投票日です。自民党から現職の久松定武が5選目をめざし, 他方社会党からは湯山勇(衆議院議員)が出て, 保革対立です。亀太郎はもちろん, 久松支援です。1月6日に久松の事務所を訪れ, 又, 必勝の乾杯をしています。「十一時から外出して大宮町水口方の県知事選久松候補の自民党事務所を訪い, 次で衆議院選で帰郷中の今松治郎候補を木公会に訪問した。選挙事務所は近く菊水旅館に設置の筈である。……夜, 再び久松候補の事務所へ行き, 今朝松山を発して郡部各地を巡回し, 八時ここへ到着の久松定武氏に会った。来会の皆と共に同氏知事五選必勝の乾杯をして九時前に帰宅した」。以降, よく久松選挙事務所を訪れています。

1月14日には立会演説会を傍聴しています。「六時久松選挙事務所へ行って, 来宇の久松氏に会った。七時から公会堂へ行って知事候補者湯山勇, 久松定武両氏の立会演説を傍聴し, 了って八時過帰宅した」。

1月26日, 知事選の投票日です。「県知事選挙の日であるが, 絶好の上天気で昼間は寒くないので投票場の出足は良い方である。妻等は午前中に投票を了え, 予は浦瀬君の来訪に接して後, 和霊小学校の投票所へ午後二時に行って久

4) 内田健三他『日本議会史録 五』217~221頁。

松氏に投じた。次で四銀と市役所へ行き、また久松選挙事務所へ行ったが、各地出足よく、六時締切後の県下投票率は前回を上回って八一・四九%を示していた。……八時過から再び久松の事務所へ行ったが、各地開票の速報は一般の予想以上に好成績で十時頃には早くも七万票の差を示して久松氏の当選が確定となった。一同万歳を唱えて、予は十一時に帰宅した」。

翌日の日記に例の如く得票数をこまめに記しています。「朝の新聞により、久松定武氏四一四、五三一票、無所属革新系の湯山勇氏三一七、二四九票との差、九七、二八二票で保守久松氏の五選確定を知った」。

(2) 衆議院選挙（1月29日）

知事選挙とほぼ同時期に総選挙（第31回）がありました。1月8日が告示、29日が投票日です。愛媛県1区（定員3）では自民党は現職の関谷勝利と元職の菅太郎の2人を、社会党は知事選に出馬した湯山勇に代わって新人の石丸義篤を、民社党は現職の中村時雄を、共産党は新人の井上定次郎を立てました。2区（3人）では、自民党は現職の八木徹雄・井原岸高と新人の村上信二郎（死去した村瀬宣親の後継）の3人を、社会党は現職の藤田高敏を、共産党は新人の秋川保親を立てました。亀太郎の属する3区（定員3）では、自民党は現職の毛利松平・今松治郎と元職の高橋英吉の3人を、社会党は現職の井谷正吉を、共産党は新人の島田学を、無所属から前回も立候補した阿部喜元が出ました。

亀太郎は、今回も今松治郎⁵⁾の応援です。1月8日「午後一時今松候補の選挙事務所開きについて菊水旅館へ行き、本日初めて街頭に進出する今松君の行を壮んにした。二時一旦帰り、五時半から更に外出。事務所その他へ寄って、

5) 明治31年北宇和郡二名村にて、今松佐一郎の次男に生まれる。宇和島中学、第一高等学校、東京帝大を出て、内務省官僚となる。東条内閣の下で内務省警保局長に就任。戦後昭和21年公職追放され、26年追放解除となり、27年10月衆議院議員に初当選（自由党）。28年4月の総選挙で落選。30年2月の総選挙で再び咲き（民主党）、以後、再選を繰り返していた。32年岸内閣の誕生により総務長官に就任。岸派。

八時過帰宅」。その後もしばしば今松事務所に通います。1月12日「今松選挙事務所へも二回行って、六時帰宅した」等。

1月13日には、今松候補の応援演説もしています。「午前宅用をして、今松の選挙事務所へ行きなどする。午後在宅。……又番城小学校へ行って衆議院議員候補者の立会演説を聴いた。夜、公会堂で今松の個人演説会を開くので、予も応援することとなり、七時からこれに赴いたが、聴衆は七合目の入りである。

『自由と繁栄の上にみゆる豊かなくらし』の題下に予は二十五分の演説を試み、閉会を待たず八時半に帰ったが、相当の反響があった」。

その後も、頻繁に今松の応援です。1月17日「五時半三好君等数名で駅へ来着の早川労働大臣、日高参議院議員一行を迎えた。自民党候補者応援のためではあるが、夜七時からの公会堂の演説会は入場者甚だ少数であった」、20日「正午までに公会堂へ行って貴賓室で政財界の少数有力者と会合。今松氣勢強化について協議した。……夜八時過、本日今松応援のため来宇の参議院議員三木典吉郎君来訪」、23日「夜六時半農協会館に於ける今松派の個人演説会へ行って、中央から応援に来宇の郡前郵政大臣等数氏の演説を聴いた。九時過了って帰った」、24日「午後二時帰宅し、夕方榎本君方と今松選挙事務所を訪うた」、25日「午後久松、今松両事務所へ行き、夜、今松派の演説会に公会堂へ行った。その間、今松応援のため来宇の大塚秀雄、増原恵吉諸氏に会うた」等々。

1月28日、投票の前日です。久松知事と共に今松の応援演説をしています。「午後〇時過、今松選挙事務所へ行ったが、折柄久松知事が今松応援のため来宇。市中商店街を行進中であつたので追いついて共に新橋の通を歩み、街頭で知事、今松候補、松尾県議等と共に予も応援演説した……六時再び今松事務所へ行き、六時、久松氏の帰松を駅で見送って後、家に帰った」。

1月29日、投票日です。今松は意外にも接戦の末、落選でした。「衆議院議員選挙の日なので、午前十時和霊小学校の市第五投票所へ行って、今松君を投票した。……各地投票場の出足は良好で形勢有利と見えたが、夜九時再び行っ

て第三区の開票状況の速報を視ると、報告到来毎に毛利、阿部両候補の進出著しく、今松は当落の堺を往来するの危さであった。十一時半、今松選挙事務所を辞して宅へ帰る頃は、阿部、毛利は当確。結局、今松、高橋、井谷の三候補が第三位の当選を争う形であったところ、帰後十二時半頃となって全県の当選者確定。第三区では五三、〇九九票阿部喜元、五二、四一四票毛利松平、四〇、五三四票高橋英吉の三氏が当選し、三九、九一八票の今松治郎氏は僅差を以て次点となった。社会党の井谷正吉氏も三六、九三七票で落選した⁶⁾。

愛媛県の選挙結果は、1区では、菅（自民）、関谷（自民）、中村（民社）が当選し、石丸（社会）、井上（共産）が落選です。2区では村上（自民）、八木（自民）、井原（自民）と自民が3議席独占し、藤田（社会）、秋川（共産）が落選です。3区では、阿部（無）、毛利（自民）、高橋（自民）が当選し、今松（自民）、井谷（社会）、島田（共産）が落選で、県下全体で、自民7、社会ゼロ、民社1、無所属1で、社会の惨敗でした⁶⁾。

全国的には、自民277、社会140、民社30、公明25、共産5で、公明を除き、前回と余り変わらず、引き続き佐藤内閣が政権を担当しています。

衆議院選挙後の3月14日のことですが、亀太郎は去る1月28日の街頭演説にかんし、告発を受け、刑事から査問を受けています。「午前十時、宇和島警察署へ行き、刑事課捜査主任篠塚光義部長から去る一月二十八日今松候補応援の街頭演説につき査問を受けた。当日久松知事、松尾県議等と共に今松の宣伝車と同行したことが氣勢を揚げる行為として共産党側の告発があったための調べである。聞取書に署名して正午過、退出」。

(3) 県議選（4月15日）

第5次久松県政発足直後の第6回県会議員選挙は、3月31日が告示、4月15日が投票です。定員52に対し、84人が立候補しています。

6) 『愛媛県議会史 第6巻』725頁。

亀太郎の属する宇和島市選挙区（定員2）では、自民から現職の中畑義秋と元職の佐子田光義（前回落選）が、社会党から現職の国村三郎が、無所属から今松徹が出ています。亀太郎は、前回落選した佐子田の応援です。佐子田陣営は雪辱を期すべく、早くから準備をしています。2月8日亀太郎は佐子田の後援会長を引き受けています。「十一時半、佐古田光義、竹田近市の両君来訪。話しがあった上で四月の県議選に佐古田君立候補につき、予がその後援会長となることを承知した」。

以降、後援会長として選挙事務所へ行くなどしています。3月26日「七時から佐子田君講演会の幹部集会に堀端の事務所へ行き、会長としての挨拶を述べて八時までに帰った」、3月31日「午前十時、佐子田候補選挙事務所へ行き、本日告示、立候補手続を済ませて街頭に進出する同君を激励した。後援会の諸君へも会長としての挨拶をする」、4月1日「夜、佐子田選挙事務所へ行き、その他へも寄って九時半帰宅」、4日「佐子田選挙事務所へも寄って六時過帰った」、13日「佐子田選挙事務所等へも寄って、夜九時半帰宅した」等々。

4月15日、県会議員選挙の投票日です。佐子田はトップ当選し、返り咲きました。「県議会議員選挙の日であるから、午后和霊校の投票所へ行って投票をした。雨天に拘らず有権者の出足よく、六時締切までに約八十二%の投票率である。七時半から佐子田選挙事務所へ行って開票の結果を待ったが、運動員多数詰掛けて威勢がよい。八時過から順次報告が入り、佐子田最初から優勢で、十時最終報告により最高点の一〇、六三一票で当選確定した。中畑義秋君九、七二〇票で当選。定員二名自民党となり、次点八、七六五票の無所属今松徹君、七、〇一二票の社会党国村三郎君の順で、大体予想通りである。一同と祝杯を挙げ、県議返り咲き当選の佐子田光義君と後援会長たる予の両名から挨拶をした。十一時帰宅」。

(4) 宇和島市長選・市議選（4月28日）

宇和島市長選挙には、現職の中川千代治に対し、元衆議院議員の山本友一が

対抗馬として出ました。この選挙には関与しておらず、日記には記述はありません。4月28日が投票日ですが、この日、亀太郎は東京におり、華宵の出版記念会に出席していました。

市長選挙の結果は、山本が20,983票、中川が17,621票で、山本が当選でした。5月3日に亀太郎は山本を訪問し、当選の祝意を述べています。「午後一時過、山本友一君を訪うて先日市長当選の祝意を表し、三時帰宅」。

市議員選挙にも殆ど関与していません。4月18日「夜七時佐藤徳造君方へ行って、同君市議選立候補事務所開きの激励挨拶をして直ぐ帰宅した」程度です。なお、佐藤は当選しています。

第3章 1968年

1968年（昭和43）、亀太郎85歳の年です。中央政権は佐藤自民政権、愛媛県政は第5次久松県政が続いています。本年は第8回参議院選挙（7月7日）の年です。なお、家業面では、8月会社が火事にあい、焼失し、木工会社の廃業を余儀なくされていました。

(1) 参議院選挙関係（7月7日）

自民党は愛媛県地方区で、現職の堀本宜実公認の予定です。社会党は上甲武（県本部前書記長）、共産党は県委員長の井上定次郎を立てています。全国区ではやはり自民は現職の豊田雅孝を公認です。亀太郎は勿論、堀本、豊田の応援です。

候補予定の堀本、豊田が亀太郎を訪問しています。3月27日、「参議院議員堀本宜実君等数人来訪」、4月26日「留守中、豊田雅孝氏等の来訪者があった」。

5月2日に自民党宇和島支部総会がありました。事実上の参院選挙の決起集会でした。「午後一時から県農協連ホールでの自民党宇和島支部の総会に出席

7) 『愛媛新聞』昭和42年4月29日付け。

した。堀本，増原の両参院議員，山本市長も臨席。宣言決議等の後，吾の首唱にて万歳を三唱し，五時閉会，帰宅した」。

6月9日，全国区の豊田候補の演説会が宇和島で開催され，岸元総理が応援に来ています。「四時から開かれている商工会館での参院議員候補豊田雅孝氏の演説会に五時半出席し，予の発声で来臨の岸元総理，菅野前通産相及び豊田氏の萬歳を三唱した」。

以降も，亀太郎は堀本，豊田の選挙の応援活動をしています。7月3日「十一時半商工会議所の小ホールに三原君等二十余人と会し，参院議員全国区候補者豊田雅孝氏の応援強化につき，打合をした。……四時大宮町水口方の自民党支部へ行って地方区堀本候補応援の状況を視，五時半帰った」，7月6日「五時半帰り，自民党支部の選挙事務所へ行った。地方区堀本候補は社会党の上甲候補より優勢で，楽観の空気であった」等。

7月7日，投票日です。「参議院議員選挙の日であるから，午前中予も妻も和霊小学校へ行って，地方区全国区の投票をした。……選挙は即日開票の分，夜に入って続々報道せられ，愛媛県は十時半に堀本宜実候補当選確実となった」。得票は堀本35万2,886票，上甲21万1,103票，井上6万2,126票で堀本が当選です。全国区の豊田は落選でした。翌8日の日記に「朝になって堀本氏は三五二，八八六票と，社会党の上甲候補と十四万票大きく引離して，当選と判明。全国区の開票結果もテレビで順次報道されたが，夜遅くなって大勢自民党に有利，社会党の退潮がはっきりした。只本県出身の豊田氏の落選は遺憾，塩崎氏も惜敗した」。

全国的には自民が現状維持，社会が後退しています。

(2) その他のこと—明治百年—

この年は明治百年に当たります。10月23日，松山での明治百年の記念式典に参加しています。「午前七時の列車で上松。……直ぐ県庁第二別館大会議室へ行って，十時明治百年記念式典に参列した。県下各界の名士四百人参集。久

松知事の式辞、頌歌合唱等あって有意義の式典であった。十一時閉会」。

12月7日に亀太郎は、退職校長を前にして、明治百年記念の講演をしています。「護国神社第二会館へ行って、退職校長級の組織する教育会に出席。会長間口勇君の紹介により予が明治百年記念の講演をした。明治初期から三十七、八年までの記憶を主として話すこと一時間余あと、宴会があって、五時帰宅した」。

第4章 1969年

1969年（昭和44）、亀太郎86歳の年です。家業面では、本年7月に小規模で木工会社の再建をしていますが、経営は不振です。健康面では、年末の12月に右肩のヘルペスで入院しています。

政治面では、中央政権は佐藤自民政権、愛媛県政は第5次久松県政が続いています。この年は選挙もなく、政治関係の記事はほとんどありません。ただ、靖国神社法案が出て、キリスト教者でありながら、賛成している点が目立ちます。6月29日「午後二時教会の集りに出席し、市内各教会連合で靖国神社法案を研究する会に臨んだ。キリスト教会の大勢は反対。予は賛成の意見を力説し、国民性を市民生活に融合するキリスト教でありたいと望んだ」。

第5章 1970年

1970年（昭和45）、亀太郎87歳の年です。中央政権は佐藤自民政権、愛媛県政は第5次久松県政が続いています。来年の知事選をめぐって、早くから保守、革新の間で動きが出ています。

久松知事は5期20年政権を担当し、年齢も70歳を超え、その区切りにあたって、2月17日、来年の知事選には不出馬を表明しました。そして、久松の後継に選ばれたのが、影の知事と言われていた白石春樹です。白石は1963年（昭和38）1月の激しい知事選挙（久松対平田）で、自民党県連幹事長、久松派の選挙参謀として選挙を仕切り、そして選挙違反（買収）に問われ、65年6

月の松山地裁判決で有罪、67年高松高裁判決でも有罪、そして白石は不服として最高裁に上告中でしたが、68年の明治百年記念の特別恩赦があり、白石は69年1月恩赦を出願し、4月に恩赦が決定、復権していました。そして、1970年3月15日の県連定期大会において、自民党は次期知事選に白石を擁立することを決定し、選挙活動に入りました。他方、社会党も4月5日臨時大会を開き、前回の知事選に続き、湯山勇（県連委員長）を擁立し、選挙活動に入っています⁸⁾。

亀太郎は、前年12月に右肩のヘルペスで入院し、本年1月退院し、活動再開です。少し後遺症がありましたが、まだ元気です。5月30日に自民党宇和島支部大会があり、来年の知事選の決起集会となり、亀太郎が万歳の音頭をとっています。「七時から公会堂で開催の自由民主党宇和島支部大会に列席した。高橋英吉、増原恵吉の両代議士、県議、市議、山本市長等多数参列。会場に千五百名の入場者があって盛会である。数氏の祝辞の後、明年の知事選挙に党の候補者として決定の白石春樹氏の所信発表演説があり、宣言決議に次で予の発声で総員万歳を三唱した。十時閉会帰宅した」。

本年の後半、亀太郎は体調を崩し、7月には大腸の潰瘍（癌）で3ヵ月程宇和島市立病院に入院し、大手術しましたが、順調に回復し、まだまだ元気です。

12月25日に、知事選必勝を祈願しています。「午前十時自民党宇和島支部が来る一月一日告示の県知事選挙に対し、必勝祈願祭を行うにつき、和霊神社へ行って参列し、式後更に栄町港の事務所開きにも出席した」。

第6章 1971年

1971年（昭和46）、亀太郎88歳の年です。本年は一斉地方選挙の年です。知事選・県議選・市長選・市会議員選挙が相次ぎました。そして、6月には参

8) 島津豊幸『愛媛県の百年』333～336頁。

議院選挙もありました。亀太郎は高齢であり、また、前年大腸癌で大手術をしましたが、まだ、元気で、それなりに選挙に関わっています。以下、見てみましょう。

(1) 愛媛県知事選（1月26日）

愛媛県知事選は、1月1日が告示、26日が投票です。自民党は白石春樹を、革新側は湯山勇を立て、保革対決の激しい選挙選が戦われました。亀太郎はもちろん白石の応援です。

1月15日、福田赳夫大蔵大臣が応援に宇和島に来ています。「午後五時半公会堂へ行って、白石知事候補応援のために来宇の大蔵大臣福田赳夫氏の演説会に列席した。六時開会。聴衆満堂。山本市長、高橋英吉、毛利松平両代議士、阿部喜元前代議士、久松知事等来宇の向、県議、市自民党幹部と共に予もステージに並んだが、久松氏その他の短演説の後、吉田町の演説会を了って六時半来着の福田蔵相の演説に移り、約四十分に亘って日本の国勢と政局安定の関係を説かれて感動を与えた。万歳三唱の上、七時半閉会」。

亀太郎は高齢ですので、選挙事務所に行く程度です。1月20日「午後、白石知事候補の松山選挙本部から電話があり、三時宇和島の選挙事務所を訪うた」、25日「予は選挙を明日に控えた自民党支部の白石選挙事務所へ寄って十一時過帰った。形勢有利なようである」。

1月26日、選挙当日です。白石が2万票余りの僅差で湯山を破り、初当選でした。この日の日記に「愛媛県知事選挙の当日である。午前十時半、妻と共に和霊小学校の投票所へ行って、自民党推薦の白石候補に投票した。……県下各選挙場は、午後六時に投票締切となり、午後八時からテレビやラジオで開票速報が報ぜられ、十時開票率七パーセント程度のところまで終始白石候補がリードしていた。やがて当選確実の線に達し、結局保守系の白石春樹三九六、〇〇七票、革新系の湯山勇三七四、八三一票で、夜遅く白石知事の実現が決定した」と記しています。以降、4期16年にわたる白石県政が続くことになりま

した。

3月16日に白石知事が来宇し、その会合に出席しています。「午前十時半商工会館へ行き、白石知事来宇、新任挨拶の会に列席した。自民党の関係者約百五十人の会合であった」。

(2) 県議選 (4月11日)

4月11日に、白石県政下の初めての県会議員選挙がありました。宇和島選挙区(定員2)では中畑義秋(自民, 現), 佐古田光義(自民, 現)と三浦雅夫(無所属, 新), 宮内勇(共産, 新)が立候補しました。亀太郎は前回と同様自民の佐古田候補の支援です。4月1日「午後二時から外出, 佐子田県議選挙事務所等二, 三へ行き, 榎本源蔵君方へ寄って五時過帰った」。只, 三浦候補も亀太郎を訪問しています。4月3日「午前県議会議員候補者三浦雅夫君挨拶に来訪, その他一, 二訪人があり又宅用をする」。

4月11日, 選挙当日です。「県議会議員選挙の日なので, 午前八時過妻と共に和霊小学校の投票所へ行って, 佐古田君を投票した。……県議選挙は夜遅く開票結果が判り, 宇和島市は中畑, 佐子田両前議員が当選して三浦雅夫新候補が次点となった。北宇和郡も従来通りの宇都宮, 赤松, 松尾三氏が当選した」。得票は, 中畑1万4,243票, 佐古田1万1,146票, 三浦6,736票, 宮内3,019票でした。なお, 県下では自民が35, 社会7, 公明3, 民社1, 共産1で, 自民の圧勝でした⁹⁾

(3) 市長選挙・市会議員選挙 (4月25日)

宇和島市長選挙は4月15日が告示, 25日が投票です。自民の現職の山本友一市長は再選を目指して早くから動いています。1月8日「夜六時半, 公会堂へ行って山本市長次期選挙立候補に就き, 後援会総会に自民党支部役員として

9) 『愛媛新聞』昭和46年4月12日付け。

列席。白石知事候補応援のため来宇の久松知事，増原参議院議員も参加して祝辞と激励があった」。

それに対し，元市長の中川千代治（無所属）が無投票を阻止せんとして，また返り咲きを狙い，立候補を決意しました。そして，中川が4月9日に亀太郎を訪れています。「三時中川千代治君来訪，市長選挙に立候補の意向表示があった」。

他方，現職の山本友一候補も亀太郎を訪れています。「十五日告示の市長選挙に中川千代治君立候補を声明したので，山本市長も之れに応じ挨拶に来訪」。

4月15日，市長選挙の告示日です。「市長選挙市議選挙が本日より始まったので街頭は賑かである」。

亀太郎はどちらを応援しているのか，不明ですが，中川候補のようです。4月21日「午後一時から外出，中川千代治君の市長選挙事務所を訪い，候補者にも会った。次で土居幸治君の市議選挙事務所をも訪い，他へも寄って三時半帰宅した」，4月24日「市長選挙，市議選挙明日に迫ったので，二，三日来候補者連呼の音が市中頻りである」。

4月25日，投票日です。中川2万1,005票，山本1万9,011票で，現職山本の落選，中川の返り咲きでした。「午前九時妻と共に和霊校へ行って統一地方選挙の一端たる市長選，市議選の投票をした。……市長選挙は六時締切，八時から開票が始り，夜十一時に至って激戦の結果が判明，返り咲きの中川千代治君が二一，〇〇五票で当選し，現職の山本友一君は一九，〇一一票で次点となった。立候補届出期日間際に出馬を声明した中川君の奮闘が功を奏した訳である」。翌26日に，亀太郎は中川新市長の当選祝いに駆けつけています。「午前中川千代治君を訪うて当選を祝し，法円寺と伊予銀へ寄って十一時に帰った」。

なお，市長選挙と同日に行われた市会議員選挙についてはあまり記事はありません。「市議三十名は大体予想通り土居幸治，川井又一郎，大塚良計，福田久司，谷松豊繁の諸君が当選した」（4月25日）程度です。

5月25日に、自民党の宇和島支部大会があり、出席しています。「三時から県農協会館ホールに於ける第十五回自由民主党宇和島支部大会に出席。来賓に久松前知事、増原参議院議員夫人等があり、久松氏の祝辞に次で予も祝辞を述べた。役員改選で三好金久支部長、前田栄三郎幹事辞任し、後任に川井又一郎支部長等が決定した。宣言決議の後、小宴があって閉会五時帰った」。

(4) 参議院選挙（6月27日）

本年は第9回参議院選挙があります。自民党の現職増原恵吉が早くから動いています。亀太郎の所にも挨拶に来ています。1月14日「外出中、増原参議院議員の夫人等の訪人があった」、2月28日「増原参議院議員挨拶に来訪」等。

参議院選挙の愛媛地方区には、自民党が現職の増原恵吉を、社会党が前回に続き上甲武を、共産党が井上定次郎を立てました。また、無所属から二宮孝晴が出ています。亀太郎は勿論増原支持です。

しかし、亀太郎はこの参議院選挙には余り関与していません。立会演説会を聞いたり、事務所へ顔を出す程度です。6月20日「七時半、公会堂に於ける参議院選挙の立会演説会に入場し、候補者増原恵吉氏に会った。増原、井上(共産党)両君の政見だけ聴いて、九時までに帰った」、23日「予は増原参議院議員選挙事務所へ寄って、川井自民党宇和島支部長等に会って二時半帰った」等。

6月27日、投票日です。「午前八時、妻と共に和霊小学校の投票所へ行って、参議院議員選挙の地方区全国区の投票をした。……参議院選挙愛媛県地方区は夜十時開票の結果判り、矢張増原氏が当選した」。得票は増原30万5,877票、上甲19万8,274票、井上7万6,014票、二宮1万7,502票で、増原が4選です。¹⁰⁾

参議院選挙のあと、佐藤内閣の改造がなされ、増原が防衛庁長官に就任し、祝電を打っています。7月4日「佐藤内閣改造により増原恵吉氏国務大臣とし

10) 『愛媛新聞』昭和46年6月28日付け。

て防衛庁長官に就任につき祝電を打った」。8月19日に増原が来宇しています。「午後六時錦大ホールで開かれる参議院議員増原恵吉氏夫妻帰郷の激励会に出席して七時半帰った」。

第7章 1972年

1972年（昭和47）、亀太郎89歳の年です。宇和島市政では中川千代治市長が病気のため死去し、1年もたたずに市長選挙が行われています。亀太郎は顧問として、候補者選びにまた係わっています。まだまだ元気です。亀太郎の体調が本格的に変調を来すのは、6月中旬以降です。そして、7月に癌が再発し、再入院し、9月23日死去しています。なお中央政権は佐藤内閣から田中内閣に代わっています。

(1) 宇和島市長選挙（4月16日）

中川市長は、1月末頃から体調をくずし、2月宇和島市立病院に入院していましたが、2月25日に死去しました。そこで、3月4日に市葬がなされています。亀太郎も参列しました。「午後一時市公会堂で執行の中川市長の市葬に列席した。白石知事、久松前知事、毛利代議士、各市市長等遠来の会葬者も多く盛儀であった。予も一般会葬者代表として焼香をし、三時式了終わって帰宅」。

そして、再び市長選挙です。前回落選した山本友一が又々意欲を示し、亀太郎にその旨連絡しています。3月5日「山本友一君から市長選挙立候補につき電話があった」。他方、同じ自民党から三好金久（元市議、1947～71年、元市議会議長）も意欲を示し、自民党は分裂しました。

この自民党分裂に対し、顧問の亀太郎等が調整に入りました。3月7日、第3の候補として今井勇を擁立しようと画策しましたが、今井に断られています。「午前八時半、村重嘉三郎氏と石崎君来訪。協議の上九時過、村重氏と共に賀古町の宅に今井勇氏を訪問し、市長選挙立候補の山本友一、三好金久両君

の対立関係解消のため、同氏の立候補を慫慂した。……七時村重氏再び来訪、先刻今井氏来り回答があったが、厚意を謝しながら周囲諸事情のため、代議士立候補の既定方針は変更し難く市長立候補辞退の申出に接したとのことであった」。

3月9日、自民党宇和島支部は総務会を開き、協議しましたが、結局、一本化できませんでした。「午後二時、市役所第四会議室に於ける自民党支部の総務会に顧問として列席。川井支部長等から相談を受けた。山本、三好両君、市長選立候補調整の件は決するに到らず、四時散会。……五時過、更に丸重旅館へ行って自民党幹部と顧問、長山、三原の諸君を加えた相談会にも出席したが、結局両者立候補を阻止し得ぬ情勢に変わりなかった」。

分裂のまま、山本、三好両派が選挙の準備に入っています。3月11日「市長選挙は党支部の調停工作行えず、山本友一、三好金久両候補が各陣営を張った形となった。松中君等の訪人があり、夕方近森君を訪い帰途、河野健一君に遇うたが今松徹君の立候補を勧めていると語っていた」、13日「十一時山本友一君を訪うた。大勢集まって選挙準備中である」等。三好、山本両氏が亀太郎宅を訪れています。3月16日「本日他出中、三好金久君、立候補の挨拶に来訪」、4月1日「山本友一君挨拶に来訪」。

山本、三好両派の泥仕合がなされたようで、亀太郎はその中止を働きかけています。4月5日「午前九時、藤田定吉来訪。市長選につき保守双方の文書による泥仕合を中止させたき旨の申出があり、同君辞去後、黒田忠信市議を招いて話した結果、共に市役所の議会事務局へ行って浅田市議に会い又、川井市議とも電話して略、その目的達成の方向に極った」。

4月6日、市長選挙の告示日です。山本、三好のほかに、社会党から菊地竜平、共産党から稲井勝、無所属から中井鐸平が立候補しています。

亀太郎の立場は、山本友一支持です。「宇和島市長選挙を四月十六日施行の公示で、本日より本格的の市長選挙に入るので、午前九時、山本友一君方の選挙事務所へ行き、その街頭進出の門出を祝した。山本候補外二、三氏の挨拶あ

り、予の発声で乾杯したが、路上数百人参加して、盛況を呈した」、4月12日「予は来訪の浦瀬君と共に山本選挙事務所を訪うた」、14日「愛媛新聞支社の和田君、山本選挙事務所の田中君等、二、三来訪者があつた」、15日「午後宅用をして、夕方山本選挙事務所を訪うた。明日の選挙日を控えて多忙であるが、有望の形勢と見受けられた」等。

4月16日、投票日です。「午前八時、和霊小学校の投票所へ行って市長選挙の投票をした。……夜九時、山本事務所へ行く。八時から開票の結果は大差をつけて三好候補をリードし、山本票二万を越す見込と言うので、既に歓声が上がっていた。幹部室にも新聞関係、その他が続々詰掛け、当選確実の山本友一君の謝辞と意見発表があり、十時、運動員数百人の中で乾杯と万歳三唱をして帰宅した」。得票は山本2万2,116票、三好1万3,964票、菊地1,319票、中井758票、稲井758票です。山本が大差で三好を破り、返り咲きました。社会党等は振いませんでした。4月17日「昨夜遅く選管発表の市長選確定票数は二二、一一六票山本友一（当選）、一三、九六四票三好金久（次点）で社会党、共産党等四候補者の得票は極めて少数であつた」。

(2) 中央政界のこと

64年11月以来長期政権を続けていた佐藤栄作は、72年5月15日の沖縄返還協定批准を見届けたあとの本年6月退陣を表明しました。佐藤のあとを受けて、自民党の総裁選挙が熾烈化しています。福田赳夫と田中角栄との争いです。亀太郎にまで、福田派から電報が来ています。6月19日「福田氏総裁推薦本部から事務所開きに上京を望む旨の電報あり、時間的に間に合わぬ由を返電した」、7月2日「自民党の総裁選が迫つたので、福田派本部から決起大会に出席のため上京を促す速達が来たり、前議員会長、その外からも頻繁に文書到着」。

7月5日が総裁選挙の日です。予想を越えて、田中が当選です。「午前会社用を指図し、十時から自民党総裁選挙の情景をテレビで見続けた。午後一時四十五分、田中角栄氏が決選投票の結果、福田氏を超越して総裁が確定したので

それから休息したあと、一、二訪人に接した」。翌6日にも記事があります。「午後二時から衆議院に於て内閣首班の指名投票が行われ、自民党総裁の田中角栄氏が総理大臣に確定した」。

そして、田中新内閣の防衛庁長官に増原恵吉が再任しています。7月7日「防衛庁長官に再任の増原恵吉氏から挨拶電報が来た」。

(3) 病気・死亡のこと

前稿ですでに述べましたが、簡単に病気・死亡のことに触れておきます。元氣であった亀太郎の体に3月下旬頃から再び変調の兆候がみられました。3月27日「市立病院へ行って藤原氏の診察を受け、近頃排便に液状のことが多いので処方箋を変えて貰った」。しかし、その後は回復していました。

5月に入り、またところどころ変調しています。肩が凝ったり、喉が痛かったりして、病院に行っています。しかし、まだまだ元氣でした。

体が大分弱ってきたのは、6月中旬以降です。また、便が液状になりました。6月12日「近頃便が液状のこと多く調子が悪い」。そして、以降、体は疲労感が続き、臥せがちになっています。

7月に入ってやや小康を取り戻し、読書したり、碁を打ったり、原稿を書いたり、俳句を作ったりしていました。日記もなお、付けていました。亀太郎の最後の日記は7月15日で、それも途中で終わっています。「午前井上君来訪。午後手紙を数通書く等、当面の用事をした。午後石崎君来訪。碁を打った。倭文正午の列車で松山へ出張し、午後四時過航空便で来着の重泰と会見。予ての打合により同地郷田……」。恐らく、この日、日記を書いている最中に急に体調が悪化したものと思われます。

そこで、亀太郎はついに入院することになりました。亀太郎は二度と自宅に帰ってくることはないだろうと自覚し、家族に家の回り、庭等を見せてもらい、宇和島市立病院に入院しました。やはり直腸癌でした。そして、2ヵ月余りの病院生活の上、9月23日逝去しました。89歳でした。日清戦後の明治30年

（1897）の14歳から働きだし、大正、昭和戦前戦後と働きつづけ、長い長い波瀾万丈の人生が遂に終わったのでした。

（完）